

## 倉敷芸術科学大学附属鍼灸ケアセンター活動報告 第2報

箕口けい子<sup>1)</sup>・内田 輝和<sup>2)</sup>・遠藤 宏<sup>1)</sup>

1) 倉敷芸術科学大学生命科学部

2) 鍼メディカル内田

(2021年10月1日 受理)

### I. はじめに

倉敷芸術科学大学附属鍼灸ケアセンター（以下鍼灸ケアセンター）は倉敷芸術科学大学に本学学生の臨床教育の実践の場、地域住民および施設利用者の健康維持・増進の場として2013年に開設され、今年で8年目を迎えた。第1報では開設から2019年3月までの6年間の活動報告を行ったが、本稿では、その後の来所状況の報告、第1報との比較を行い今後の展望について考察する。

### II. 鍼灸ケアセンターの現状

鍼灸ケアセンターは倉敷芸術科学大学の附属施設である「ヘルスピア倉敷」の1階に位置している。第1報同様、大学教員1名が職員（保健所に登録済みの鍼灸師）を兼任して所属し、業務は基本毎週火曜日の午前9時～午後5時まで原則予約制で施術を行っている。施術料金は本学および学園関係者（教職員・学生）1000円、一般3000円である。初診料は取らず、一般は初回のみ1000円としている。これは、鍼灸を一度体験してほしいという考えから開設時に設定した。

### III. 2019年4月から2021年3月までの来所患者状況

#### 1. 患者数・患者所属・利用回数

集計対象期間における年間施術日数、初診患者数、再診患者数を図1に示す。施術日数は87日（年間平均43.5日）、初診患者数は計17人（年間平均8.5人）、再診患者数は計466人（年間平均233人）であった。累計患者数は483人（年間平均241.5人）であり、2019年のほうが多く249人であった。施術日数も患者数同様に2019年のほうが多く46日であった。

同じく対象期間における累積患者数と、1年毎の患者の所属を一般患者、職員、教員、学生の4区分で分類したグラフを図2に示す。患者の所属で見ると、教員344人（年間平均172人）が最も多く、次で一般患者80人（年間平均40人）で、最も少ないのが学生1人であった。

また、施術回数と所属の関係のグラフを図3で示す。一般患者は、1回から5回が12人で最も多く、教員は1回から5回が7人、21回以上が6人であった。

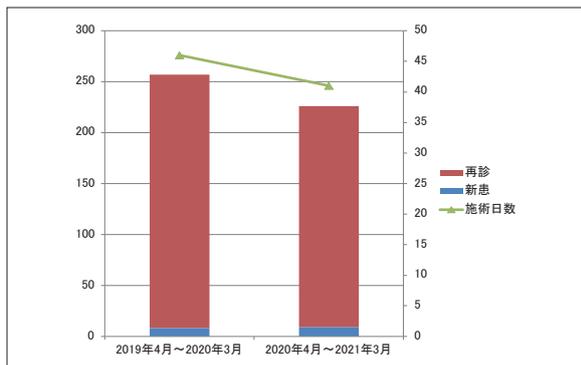


図1. 年間施術日数、初診患者数および再診患者数

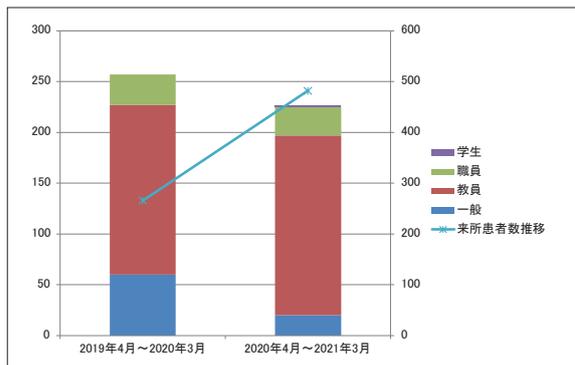


図2. 累積患者数と所属4区分の年間患者数

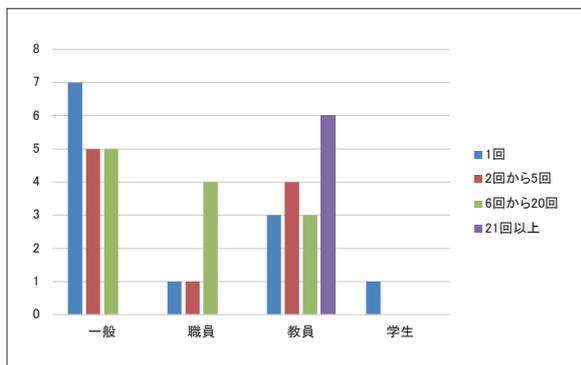


図3. 施術回数と所属4区分の関係

- 図1 施術日数と初診および再診の患者数を示す。  
2019年度と2020年度を比較すると、施術日数が減少し、それに伴い患者数も減少している。
- 図2 累積患者数と所属4区分の年間患者数を示す。  
2019年度と2020年度を比較すると、一般患者は減少しているが、教員は増加している。
- 図3 施術回数と所属4区分の関係を示す。  
総患者数40人の施術回数では、1回が多いのが一般7人、21回以上には教員6人が存在する。

## 2. 患者構成

### (1) 性別

初診患者17人のうち、性別内訳は男性6人、女性11人であり、女性の方が約1.6倍多かった。2年間の実質の患者数は40人であり、性別の内訳は男性20人、女性20人で男女差はなかった。

### (2) 居住地域別

来所患者を居住地域別にみると、倉敷市内が27人と最も多く、次に岡山県内12人、最後に岡山県外1人であった(図4)。

### (3) 年齢層別

来所患者の年齢層別分布状況についてみると、40歳代(10人)が最も多く、次いで、60歳代・70歳代(各8人)、50歳代(7人)であった(図6)。

### (4) 鍼灸経験の有無

初診時での鍼灸治療経験の有無を図5に示す。57%がこれまでに鍼灸治療の経験があった。

## 3. 来所患者の主訴

図7は2年間の来所患者の主訴を部位別に集計した結果を多い順に示した物である。肩部(24件)、腰部(20件)が多かった。部位に関係なく全体の87%が痛みを訴えていた。

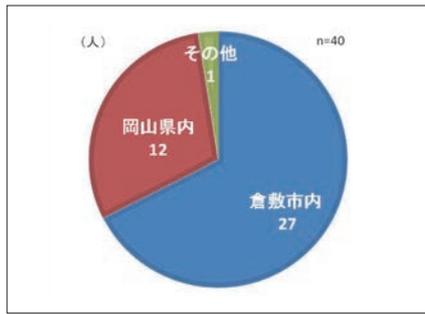


図4. 来所患者の居住地域別内訳

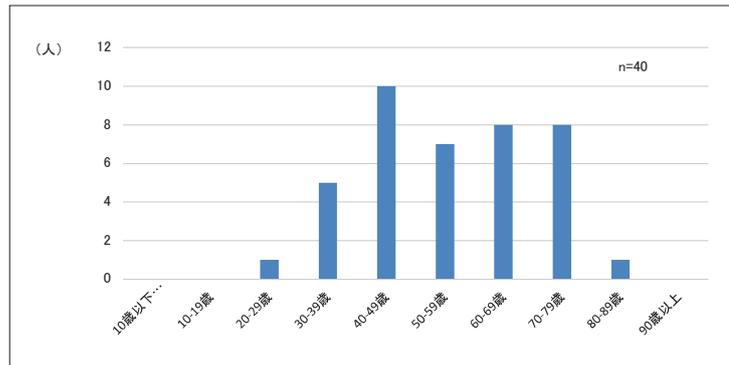


図6. 来所患者の年齢層別分布状況

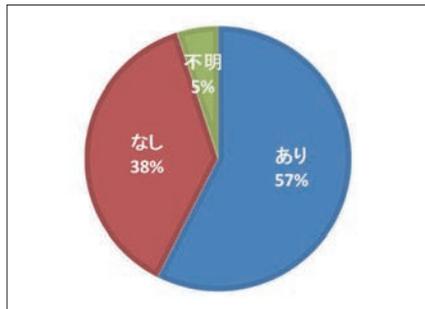


図5. 来所患者の鍼灸経験

図4 来所患者の居住地域別内訳を示す。

倉敷市内が最も多く27人、次いで岡山県内12人である。

図5 来所患者の鍼灸経験を示す。

鍼灸経験がある患者が57%である。

図6 来所患者の年齢層別分布状況を示す。

最も多いのが40-49歳代の10人、次いで60-69歳代、70-79歳代が8人である。

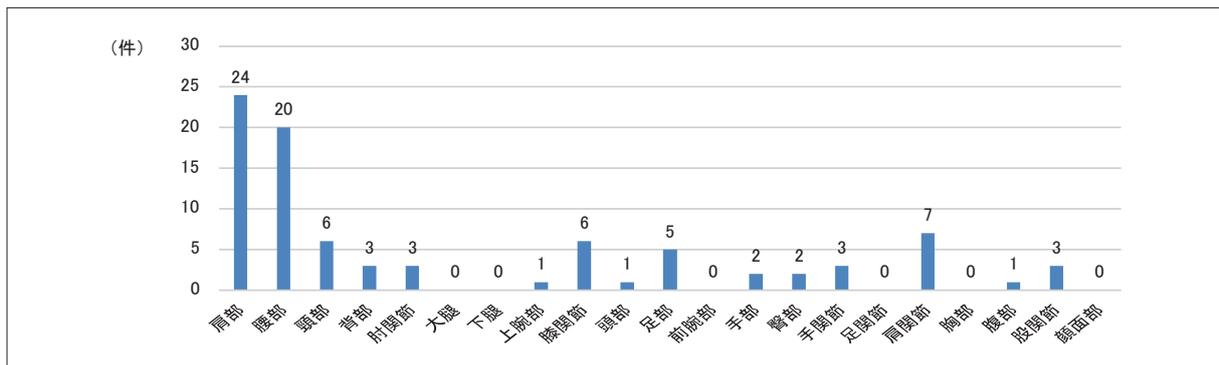


図7. 部位別に見た主訴の内訳

#### IV. 2019年3月までとの比較

表1は開所から2019年3月までの6年間（以下、期間A）と、2019年4月から2021年3月までの2年間（以下、期間B）を平均値で比較した結果である。施術日数について期間Bは期間Aの約半分であり、初診患者数も期間Bのほうが大幅に減少している。しかし、累積患者数は期間Bで20人、再診患者数も期間Bの方が30人増加している。患者所属別の比較として、教員については期間Bが期間Aの約2倍に増えているが、その他は減少しており特に学生は大幅に減少している。

表2は患者所属別の同期間内の施術回数を比較した結果である。一般の施術回数1回目はほぼ変化はなく、6回から20回はやや期間Bのほうが増加している。職員の施術回数6回目から20回に関して期間Bは期間Aの約12倍と増加し、教員に関しては2回から6回、21回以上では、期間Aより期間Bのほうが増加している。

表1 患者数・患者所属の比較

	開所から 2019年 3月まで	平均	2019年 4月から 2021年 3月まで	平均	
施術日数(日)	470	78	87	44	
初診患者数(人)	132	22	17	9	
累積患者数(人)	1321	220	483	241	
再診患者数(人)	1189	198	466	233	
所属 4区分の 数(人)	教員	577	96	344	172
	職員	279	47	58	29
	学生	55	9	1	0.5
	一般	410	68	80	40

表2 患者所属別における施術回数の比較

	開所から 2019年3月まで				2019年4月から 2021年3月まで			
	一般	職員	教員	学生	一般	職員	教員	学生
1回	42.1	22.2	41.2	61.9	41.2	16.7	18.8	100
2回から 5回	35.5	38.9	5.88	33.3	29.4	16.7	25	0
6回から 20回	19.7	5.56	29.4	4.76	29.4	66.7	18.8	0
21回以上	2.63	33.3	23.5	0	0	0	37.5	0

## V. 考察

### 1. 患者数・患者所属・利用回数について

第1報同様、年間来所患者数は平均して約200人ずつ増加し、同じ条件の職員1人で開所していた6年目の年間患者数170人に比べ、2019年度、2020年度の平均年間患者数は、241人と増加している。初診患者が減っているにも関わらず、年間平均累積患者数が増加していることから、再診が増加していることがわかる。特に増加しているのは、本学教員の再診である。教員再診増加について考えられる理由が2つある。一つ目は低価格の料金設定である。これにより教員・職員および学生は街の鍼灸院で1回施術にかかる料金で複数回の施術を受けることができる。料金については大学ホームページに掲載されているもののまだ学内でも広く知られておらず、この2年間で21回以上の施術を受けられている教員は、ほとんどが同じ部署で働く同僚の紹介であった。二つ目の理由として、自身の都合にあわせてすべての時間に予約ができることにある。反対に就業時間が決められている職員の場合、予約時間は17時から18時であり、1か月で平均4人しか予約ができない。これにより職員の初診利用は減ったと推測される。今後は職員が利用しやすいように開院日を増やす対応を考えている。また、学生の利用がこの2年間で1人であった。これは鍼灸専攻の募集停止に伴う鍼灸専攻所属学生の減少や、ヘルスパia倉敷への公共交通手段がないことが考えられる。料金に関しても、学生にとって鍼灸を体験してみるには高いと考えている可能性もあるため、今後は、より低価格での施術を期間設定したうえでを行い、人数の変化を見てみたい。

また、再診が多い理由としては他にも症状を治すだけでなく、これ以上悪化しないための予防という考えを持つ患者がいることが推測できる。全国を対象とした調査では、鍼灸の年間受療率は4.9%であり、鍼灸治療を受けたことがない人の割合も77.4%である。これまでも複数回調査されているこの比率は減少傾向にある。それに対して、鍼灸ケアセンターにおける患者数は開院当初から比較すると増加傾向にある。再診の増加は技術の未熟さを表すことも考えられるが、丁寧な対応を行うとともに、予防を促す再診であれば患者の健康に寄与できるものであると考える。

## 2. 患者構成について

年齢層別の結果でこの2年間では40歳代が最も多かった。その理由の一つと考えられるのが、増加がみられた教員の再診の多くが40歳代であったことが考えられる。

## 3. 患者の主訴について

他大学の報告と同じく、本学においても肩や腰の痛みが最も多い主訴となった。また、患者全体の87%が何らかの痛みを主訴としていたことから、「鍼灸で痛みが軽減する」と考えている方が多いことが推測できる。痛みは、急性疼痛後3か月以上持続するまたは、通常の治癒期間を超えて持続すると慢性疼痛とされる。一般的な「運動療法」であるウォーキングやストレッチ、筋力トレーニングは慢性疼痛に有効とされている。しかし、痛みがあると体を動かすのが億劫になるため鍼灸の鎮痛作用を利用し、まずは痛みを軽減した後に「運動療法」を実施するのが慢性疼痛を改善する一つの方法になると考える。鍼灸ケアセンターでは、慢性疼痛が疑われる患者に対して、鍼灸施術で疼痛が軽減した後に運動を行うアドバイスをするようにしている。

## VI. おわりに

倉敷芸術科学大学鍼灸ケアセンターの2019年4月から2021年の3月までの2年間の来診患者の状態について報告した。集計対象期間における鍼灸ケアセンターの来所患者数は、初診患者17人、累計患者数は483人であり、来所患者の分類と初診、再診の状況を合わせると、教員、職員の再診が多かった。また、来所患者の主訴については先行事例および、前回の報告と同様に肩こり、腰痛が多く、何等かの痛みを訴える患者が全体の87%であった。このことから、「鍼灸で痛みが軽減する」と考える方が多いことが推測される。

今回、2回目の報告を行ったことで鍼灸ケアセンターの状況を把握することができた。鍼灸ケアセンターは本来の目的の一つである学生の臨床実習の場としての役目を終えた。ご協力いただいた多くの患者さんに改めて御礼を申し上げる。今後は鍼灸ケアセンターの現状からうかがえる福利厚生としての鍼灸を深めるとともに、卒業生の臨床（研修）の場として利用できないかと考えている。

## 謝辞

本報告にあたり、セイリン株式会社、株式会社山正、株式会社阿部らのご協力もいただいたことに、感謝の意を捧げる次第である。

## 利益相反

なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

**参考文献**

- 1) 水出靖 木村友昭他「東京有明医療大学附属鍼灸センター報告（第2報）」有明医療大学雑誌 Vol.5：27-31 2013
- 2) 津嘉山洋 山下仁他「筑波技術短期大学附属診療所における5年間の鍼灸外来活動報告」筑波技術短期大学テクノレポート No.5：217-221 March 1998
- 3) 矢野忠他「鍼灸マッサージ療法の受療の有無とその理由に関する調査研究」公益法人東洋療法研修試験財団 鍼灸等研究報告書 2020
- 4) 慢性疼痛診療ガイドライン作成ワーキンググループ「慢性疼痛診療ガイドライン」第1版 真興交易（株）医書出版部 2021

## Activities of the Acupuncture and Moxibustion Care Center in Kurashiki University of Science and the Arts : Second Report

Keiko MINOGUCHI<sup>1)</sup>, Terukazu UCHIDA<sup>2)</sup>, Hiroshi ENDO<sup>1)</sup>

1) *Major of Acupuncture and Moxibustion, Department of Life Science,  
Kurashiki University of Science and the Arts,*

*2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan*

2) *Harimedical Uchida*

*Takashimaya east hall 3F, 5-20, Honcho, Okayama-shi, Okayama 700-0901, Japan*

(accepted on October 1, 2021)

The Kurashiki University of Science and the Arts Acupuncture and Moxibustion Care Center (hereinafter, the Acupuncture and Moxibustion Care Center) was opened in 2013. This year marks the 8<sup>th</sup> anniversary of its establishment. In the first report, we documented the activities during the six-year period from its establishment to March 2019. This article aims to report on the status of patient visits to the Acupuncture and Moxibustion Care Center since then and make a comparison with the first report.

During the 87 days in which it was open for services, the Acupuncture and Moxibustion Care Center visited 483 patients, 17 of whom were new patients. Although the average annual number of days it was open has decreased since the first report, the average number of patients visited per year has increased, while the number of new patients has decreased dramatically, suggesting an increase in the number of faculty members returning for follow-up visits. The reason for the increase in follow-up visits is likely to be convenience low costs, but its success in preventing the onset of symptoms might also be playing a role. As in the first report, the chief complaints of the visiting patients were shoulder and lower back pain, which accounted for half of the patients. Eighty-seven percent of all patients visited the center for the chief complaint of pain, regardless of the site. These findings suggest that many people visit the Acupuncture and Moxibustion Care Center with the belief that acupuncture and moxibustion reduce pain.